

赤倉合宿

至 昭和十六年十二月廿日 午前七時半
自 昭和十六年十二月

合宿隊員

十二月廿日 隊長 3F. 渡邊 華宏助

3L. 梅野 武康

3A. 鈴木 登紀男

3D. 迫 登

3C. 田中 健次郎

3E. 前田 正男

21日夜

2D. 市浦 浩

2C. 羽鳥 哲郎

24日朝

1A. 堀米 鉄也

1D. 佐伯 一

1A. 馬場 英夫

2A. 相馬 龍三

} 23日朝

自一泊

2A. 武田 亨

3C. 山口 芳久

23日夜

十二月廿二日(月曜日) 曇 時々霧

稍々遅れて起床。建国体操ラゲオ体操を行ふ。待望の雪は降らず雪は益々融ける一方である。一同がっかりしてコタツに入つて雑談。

10時半頃元氣ある者數名 觀光ホテル前スロープ、官林スロープ、銀座スロープにてローンスキーに近き滑降を行ふ。

天候悪く雪は融けるだけにて土や草の出ている所多し。午後一同風呂へ入つたり、菓子を食べたり、漫談をせたりに過す。昨日の汁粉の味に飽き足りずスキーに専らして汁粉食ひに出発せる者あり。

夜ゼスカーを以て遊ぶ。

本日は実にスキーには何かぬ一日であつたが合宿としては楽しい一日であつた。相変わらず梅野はつまぬことを云つて人を笑はせるし、前田は例の如くであり、田中はすっかり銀座山スキーに凝つたり、窪田は隱居さんであり、白は時々ほがすかになつたり、市浦はすましたり以下-----。山口が来たと思つたが来なかつた。

拾貳月廿三日(火曜日) 快晴 [追記]

例の如く朝食を食つて「テラ」の用意を以て居ると。相馬、武田の両君がやつて来た(約八時頃)。今日亦幸晴らしい晴天である。雪の多い場合古くから、みんなどんなにか嬉しいことであらうにと、又いふ今年雪の歩なきか限めしい。雨が降つても雪が降つていふ言ふんたから.....。でも今朝は珍しく空気が冷い。それ大増たのかもしぬ。昨日前田君と二人で折原村にきて觀光ホテルの前にゆくことに決める。

ホテルまじか大慶である。夕夕夕の。それ最後に折原村に近づく。一軒あまも行かぬ人けならんのかから。野尻湖が今朝の如く白く、白根、菅平その他見ればおへ山の山々が紫一色にかすんで見える。大気が冷い故か、雪の条件は今日が最宜い。滑つてゐる人と思ふより多い。尤も去年の今頃と較べると、割に送らないほど。就中婦人の姿はとんと見付けぬ。余り居たとしても、困るか? 全々居ないのは又淋しい。何か解観の一部が外れたやうな物たない気持である。割合は急斜面で、皆の古滑降の練習は。佐伯、馬場、堀米、元喜、上巻、下巻がめざましい。晝食を摂りに宿まじり。之は随分不経済な

ことか。三時間の第五と時間と相馬の勞力を要するのから。午後のホテル前での練習は、越と思はせるが大雪でスピードが自由に使ひきた。帰りのバス道、下降は本合宿始りの計たしスであつた。午後山口君が不意に来た。

12月24日(水曜日) 晴後雨

朝食 終つて出発といふ頃 羽鳥来る。一同
觀光前スローフにて練習。午後になると再び雪が
降りその様よではあるが 雪はとける一方だ。

中食もとりに戻った頃から雨らしくなつたので一同
こたゝにはいって談へる。三時半頃 特湊の雨
酒井先生を向へに行つた ~~渡辺~~ 前田 鈴木達ほど
うしてあるだらうか。夜になつても電灯がつか
ぬ。ビューズも見るとすく 黠いた。雨の中を
先生と向への一行が戻つてくる。今夜中に雪になら
ぬと 明日からは練習出来ぬと云ふ。